

早稲田大学 社会科学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	例年通り、大問全てが、初めに記述式、後半に語群選択や文章の正誤判定の形式は大問全てに共通。記述式はやさしいが、正誤判定は手ごわい。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	世界システムとしての地中海世界	記述式と語群選択は易しい。問6は面倒に見えるが、プロタゴラスとタレスの2人さえわかれば即正答できる。問8-dのポトシ銀山発見は1545年でカルロス1世時代のこと。問10-eのアドリアノーブル条約はロシアとトルコの講和条約。英仏がギリシア独立を認めたのはロンドン会議。	標準
Ⅱ	第1次大戦後の世界	記述式は標準的だが、正誤判定は難しい。問4-cの非常任理事国は10カ国ではなく9カ国、eの原加盟国は27カ国ではなく42カ国が正しい。問7-dは「ミシシッピ」ではなく「テネシー」、問8-aは「社会民主党」ではなく「ドイツ人民党」が正しい。問10-aは「新規」ではなく「保有」、bは「9カ国条約」ではなく「4カ国条約」、dはその逆、eは「補助艦」ではなく「主力艦」が正しい。	難
Ⅲ	鉄道の歴史	問3の保路同志会は細かい。問6-bのアフガニスタンは英の勢力圏。問7-eのシベリア鉄道全線開通は1916年。問8-eは李鴻章ではなく左宗棠が正しい。問9はややこしそうだが、②の仏の広州湾租借だけが99年とわかれば一発で正答できる。問10は②以外は間違い。	一部難
Ⅳ	ヨーロッパ政体の変遷	問3のホップズは政経でも出ていた。問5-eはロレンツォではなくコジモが正しい。問9-eはトーリーではなくホイッグ。問10-dで条約の批准権をもつのは下院ではなく上院が正しい。	一部難

[総合コメント]

毎年のことながら、正誤判定のポイントが非常に細かい。とくに、「誤っているもの」を選ばせる問の「正しい」文の内容が尋常ではない。受験生が参考書や用語集で必死に勉強してもカバーできまい。しかし、「誤っている」部分そのものは受験勉強の範囲に収まっているので、そこを一本釣りで狙うのがよい。見覚えのない細かいポイントは気にしない方がいいのだが、正常なレベルの受験勉強を徹底的にやってこそ、見覚えのないものは別世界の内容だと切り捨てられる実力がつくというものだ。用語集も、説明文の内容をとことん読みこむ必要がある。時間と労力を必要として大変そうだが、やった人はそれなりに報われるから、決して効率の悪い勉強法ではない。